

地域計画

策定年月日	令和6年11月13日
更新年月日	()
目標年度	令和13年度
市町村名 (市町村コード)	津市 (242012)
地域名 (地域内農業集落名)	妙法寺地区 (妙法寺)

注：「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積（農業上の利用が行われる農用地等の区域）	15.5 h a
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	15.5 h a
② 田の面積	13.0 h a
③ 畑の面積（果樹、茶等を含む）	2.4 h a
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0 h a
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	0 h a
(参考) 区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	h a
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	h a
(備考)	

注1：①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2：②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積（現況地目）に基づき記載してください。

3：④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4：⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5：(参考)の区域内における○才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6：「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

当地区は、中山間地にある農地と、河川を隔ててほ場整備を実施した平地の農地で構成されている。現状は2者の担い手と個人農家が営農しており、担い手への集積率はおおよそ5割である。

谷間の農地については獣害が多く、営農を維持するには獣害対策が必要であることと、農業者の高齢化から水路を含めた保全管理の体制維持が将来に向けての課題である。

また、個人農家が離農する場合は、担い手への集積、集約を調整する必要がある。

(3) 地域における農業の将来の在り方（作物の生産や栽培方法については、必須記載事項）

当地区は水稻を中心に、担い手が小麦、大豆の作付けも行っている。また、一部の担い手がほ場整備を受けた農地でほうれん草の栽培を行っており今後もこれらの作付けを行っていく。

担い手が引き受けている谷間の農地については獣害対策の補助等の活用も検討しながら営農を続けていける環境を維持し、農地の集積・集約については個人農家が離農する場合は、既存担い手への集積・集約を図るように調整していく。

ため池や水路の維持管理について、将来的な人手不足を解消するために地区と担い手との協力体制を構築していくことを検討したい。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
農地バンクへの貸付けを進めつつ、担い手の農作業に支障がない範囲で担い手への農地の集積・集約化を基本とした農業者への農地利用を進める。			
(2) 担い手（効率的かつ安定的な経営を営む者）に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	55 %	将来の目標とする集積率	55 %
(3) 農用地の集団化（集約化）に関する目標			
個人農家が将来的に離農した場合は、農地中間管理機構を通じて現在の担い手への集積・集約を進めていく。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積、集団化の取組
地区内の農地の集積・集約については農地中間管理機構を通じて行うこととする。 経営体が営農困難になった場合については、農地中間管理機構の農地バンクの機能を活用することで、新規受け手への付け替えを進めることができるように機構への貸し付けを進める。
(2) 農地中間管理機構の活用方法
農地貸借が発生した際は、農地中間管理機構の農地バンクの機能を活用する。
(3) 基盤整備事業への取組
老朽化している用排水路施設等の確認を行い、必要であれば改修を進め有効利用を図っていく。今後の人手不足を考慮し、県、市やJAなど、既存制度の活用を視野に相談しながら取り組んでいく。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組
既存担い手への集積、集約を基本とするが、営農継続が困難になった場合は、地区外からの新たな担い手の受け入れを検討する。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
作業の効率化が期待できるものは、委託による実施を検討する。

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください）

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	
【選択した上記の取組内容】				
① 老朽化した柵や未設置の箇所を中心に獣害対策の助成を活用しながら設置を検討していく				
③ 作業効率化を図れる設備投資については、助成等の活用も視野に取り入れられるものを検討していく。				
⑦ 多面的機能支払の活動組織による農道、水路等の保全管理活動を行っているが、将来的に高齢化による労力不足が見込まれるので、地区内の農業者と連携しながら取り組める仕組みを構築したい。				

4 地域内の農業を担う者一覧（目標地図に位置付ける者）

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度：令和 13 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	担い手A	水稻、麦	8.7 ha	ha	水稻、麦、大豆	8.7 ha	ha		
認農	担い手B	ほうれん草	0.2 ha	ha	ほうれん草	0.2 ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	2経営体		8.9 ha	0 ha		8.9 ha	0 ha		

注1：「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業体（農協を除く）は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2：「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3：農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4：作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5：備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業体一覧（任意記載事項）

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図（別添のとおり）